

2026年を迎えるにあたって

令和8年1月

津田雄一

新年あけましておめでとうございます。新執行部になって1年、私たちは前執行部の課題を引き継ぐことに加えて、目の前の諸問題（LiteBIRDの再生、DESTINY+/RAMSESの実現、SOLAR-C/イプシロン問題、能代等の運営刷新等々）に取り組み、また、現在の宇宙研を取り巻く大きな課題（メーカー問題、ミッション頻度問題、アカデミア求心力問題・・・）に対する打ち手の議論と実行を進めてきました。そういった活動を通じ、多くの方にとって宇宙科学の役割を思い返し考え直す契機となったのではないかでしょうか？議論の中で私が実感した宇宙研の役割は、多少の自負心も込めて言えば、以下の3点に集約されます。

- 1) 宇宙科学こそが、日本の宇宙開発をドライブする源泉であること
- 2) 宇宙研とアカデミアとの関係は学術コミュニティ形成の良質なお手本であること
- 3) 宇宙研は、システム実践の研究所。やって見せ、やってみさせる組織であること

しかし、だから宇宙科学はすごいんだ、重要なんだ、みんなわかって、では何も生まれません。宇宙開発のステークホルダーがかつてなく広がっている今、宇宙科学のための宇宙科学ではなく、「宇宙XXのための宇宙科学」の意義と価値を外に示していくことが求められているのだと思います。（ここでXXは、“産業”，“人材”など。XX∈”宇宙開発” ∧ XX≠“科学”）。

上記の文脈で、私たち宇宙科学研究所が目指すべき3つの行動指針を以下に示します。

①産業界との関係の再構築

宇宙研は昔から貧乏でした。貧乏だけど発注すれば受注してくれる相手がいたから、技術を磨きました。そうしてできた技術は産業界にも還元出来ていたし、産業界もそれを恩恵と思ってくれていたでしょう。では今はどうでしょうか？構想力だけでなく、モノづくりの迫力をもって産業界を巻き込む力を持っているでしょうか？泥臭いミッション実践の場を、絶えず提供できているでしょうか？そういう場は片思いでは実現できません。共につくり、共に育て、ともに未来を描く「共創性」と「予見性」が必要です。我々は、宇宙科学が人類の未来へどう貢献するかを語るのは得意ですが、もうひと声、産業界の今と、近未来の宇宙開発にどう貢献するのかを、考え方を示していく必要があります。

②宇宙科学は定常サイクルでないことの自覚と、その上で何としても機会を捻りだしなやかさ

戦略的中型ミッションを10年に3機、公募型小型ミッションを10年に5機というサイクルはいまや完全に崩れています。それは物価高騰、イプシロン問題などの外的要因だから仕方ない—としても、それらに無策を決め込めば宇宙科学は誰からも応援されなくなるでしょう。国の研究機関である我々には、世界の情勢に合わせてベストを尽くすしなやかさが求められているはずです。「戦略的」「公募型」は最良の区分けになっている？ロケットアンカーテナンシーの責務は果たすが悪影響は賢くかわす宇宙科学の発展シナリオとは？

この一年、私たちは、「準小型」という新たな枠組みでコンパクト・高サイクルのハンズオン宇宙ミッショ

ヨン実践の場（＝やってみなはれの場）の議論を深め、宇宙戦略基金を通じた民間との新たな形の宇宙科学ミッション実現の場（＝やって見せる場）の働きかけを様々な宇宙開発関連セクターと行ってきました。根本に立ち戻ったしなやかな議論をしつつ、2026年はその芽吹きの年となることを期待します。

③宇宙研を技術の“踊り場”に

宇宙開発の修羅場を潜り抜けてきた宇宙科学コミュニティの皆さんには、現在の宇宙産業の隆盛はどう映っていますか？宇宙ベンチャーが多く生まれ、活況を呈しているのは大変結構なことですが、宇宙科学の果たす役割をより強く感ずる契機にもなっているのではないか。国のカンフル剤は効果的に作用しているように見えますが、カンフルが切れる近未来にカラ元気にならないための伴走者が必要なように思えます。いまの混沌は宇宙科学だけではない。こういう時代には楽しい未来を語れる場に人が集まる。宇宙科学ミッション実践の場としての宇宙科学研究所は、新しい技術を試す楽しい場所、挑戦を語れる場所、現状を打破する場所、そういう“技術の踊り場”的雰囲気を作りましょう。

上記①～③を実現するためには、愚直な方法しかありません。つまり、対話です。対話は、皆さんのお持ちのチャンネルをフルに活用していただきたい。宇宙科学の実行集団として、積極的にアカデミアと、宇宙科学の外の情勢を共有し問題意識を醸成していってください。また、宇宙科学の外の人たちと語り、彼らに我々が何ができるかを議論する機会を大切にしてください。

2026年年始の段階で、宇宙科学の未来を描ききるためのピースは未だ揃っていません。しかし揃うとすぐに、それがどんなピースであれ、大旋回が待っています。適時の対話と、コミュニティとしての果断実行で、（いろんな意味で）予見性の高い宇宙科学の未来を目指していきましょう。

そんな未来のことより、今年そもそも忙しくね？はやぶさ2号、MMX、ベピコロンボ／みお、HERA等々のクリティカルイベントが目白押しだよね？一もちろん、それらはしっかり進めていきましょう。ここに至るまで積み上げてきた各プロジェクトの皆さんには敬意を表しますし、今年もしっかり伴走します。その上で、結果が出る年だからこそ、「今」も「未来」も両方描き切る。私は、この宇宙研のメンバーとなら、この宇宙科学コミュニティならば、こんなご時勢でも妙味ある面白い未来が拓けると信じています。